

進捗状況の概要

平成27年度の本校AP事業の進捗状況は次の通りである。(平成27年度成果報告書該当ページ)

1. 学内組織とシニアOB連携組織 (各12回の会議を実施し、組織運営した。pp. 7-9, 10)

学内組織としては申請時に計画した教育AP推進室を、主管会議メンバー他を各4チームに配属すると共に、今年度から全5学科の代表が含まれるよう、2科の学科長と実習系の技術職員1名、および実践技術単位サーバ担当者1名を追加した。シニアOB連携推進会議についても新たに1名を追加し11名の委員による会議を推進した。

2. ICT教育環境の改善 (LMS運営と実践技術単位サーバ構築。pp. 3-4~7, pp. 6-4~8, p. 7-14)

ICT教育環境の改善としては、前年度末からの教室無線LANを活用し、前年度導入タブレット等の授業での活用を推進した。そして、LMSを年度初めから全教育課程科目と各種非教育課程活動項目について展開し、学修支援コンテンツの新規作成・移植・拡充を進めた。また、本校の学修成果可視化戦略の要である実践技術単位サーバの構築と、ポイントデータの蓄積を開始した。

3. ALの活用状況 (全授業シラバスでのAL活用の可視化。pp. 3-1~3)

ALの活用状況としては、全教員が全ての教育課程科目にて、半期1回以上のAL導入を進めた。当初計画では、第3学年までの予定であったが、第5学年まで、全学年への一斉導入で展開した。

4. 実践技術単位制度の全学展開 (電気情報工学科の取り組みの他学科への拡張。pp. 6-1~3)

本校APプログラムの総合的・定量的な学修成果可視化戦略である実践技術単位制度について、当初予定の環境都市工学科への拡張に留まること無く、全学共通ポイントを含む、5学科全ての各工学分野別の実践技術単位認定項目と付与単位数を、前倒しで決定した。このことにより、次年度にはその可視化指標の活用方法の検討へと進むなど、学修成果の可視化戦略の展開を可能とした。

5. 実践技術単位サーバの運用 (単位登録と集計用サーバによる学修成果の可視化。6章)

電気情報工学科では、簡易データベースでの登録と確認であったが、全学展開することを踏まえて、データベースサーバを構築した。ヒアリング時の審査委員からの指摘事項に配慮して、教員が認証後登録・確認する部分と、学生個人が登録・確認する部分を明確化すると共に、学生が他者の単位修得状況を確認できない設定とした。ただし、各学生やクラス、学年や学科ごとの、実践技術単位獲得状況やその年度ごとの進展を可視化して行くことは、蓄積していくデータの活用方法として極めて大切である。このデータの解析後の可視化方法については、次年度以降も教育AP推進室会議にて慎重に検討しつつ、有効活用する体制を構築することとした。

6. 企業技術者一押し45課題の作成 (提案シートの内容をLMSのコンテンツに育成。5章)

本校シニアOBの企業経験から、本校で開催している地域企業の中核人材育成塾コンテンツを含めて、学生の自律的・自主的学修支援コンテンツを作成した。本年度は全項目入門レベルのコンテンツを本校教員とシニアOBの連携により作成した。一部コンテンツでは、入門レベルに加えて基準レベルや発展レベルのコンテンツも作成し、科目間の繋がりなど、学年・学科をまたぐ、教育課程科目コンテンツとは異なる視点の、外部意見を反映させた自主学修コンテンツとして作成した。

7. FD活動 (教員へのICT機器活用とAL活用に関する支援活動。2章)

毎回の教員会議の後に、FD活動を実施する体制を整え、年間行事予定表のFD活動や授業参観週間に加えてFD活動を実施した。これらにより本校AP活動の共有化と可視化を全学的に進めた。

8. 広報活動 (各種会議での発表、論文投稿。年度末報告書の作成等。1章, 2章, 7章)

APにより連携関係にある他高専の取り組みへの参加を含めて、可能な限り本校取り組みを広報した。特に、高専フォーラムや東海工学教育協会高専部会シンポジウム他、大学関連の学会や国際会議でも本校のAPの可視化に努めた。

以上について、年度末に成果報告書にまとめ、関係する大学および全高専に配付した。